

令和5年度 府中市立府中第二中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	- 授業中に理解したこと、考えたことの定着がなされていない。 - 漢字の書き、読みともに苦手意識をもつ生徒が多い。	- 学習プリントを活用して、文章内容の整理など視覚的にも理解しやすく工夫する。 - 漢字テスト、練習の時間を積極的に確保して意識づける。	B	
数学	- 授業中の理解は図れているが、定着がなされていない。 - 知識の整理が甘く、用語や記号を正しく覚えていないため、正しく思考につなげることができていない。	- 授業中の練習を、その時間の内容だけでなく、振り返りの内容、総合的な内容を増やしていく。 - 計算練習のみでなく、用語の意味について随時確認する。	B	
理科	- 授業中での理解はできているようだが、定着がなされていない。 - 考察を分かりやすく文として表現することがむずかしい。	- 授業の内容を家庭学習の時間に復習するよう呼びかけ、定期的に小テスト等を実施する。 - 模範的な考察を提示し、考察の書き方を学習する機会を作る。	B	
社会	- 授業中で理解している様子は見られるが、知識が定着していない。 - 知識を活用して思考することが苦手な生徒が多い。	- 課題などを通して知識の定着を図る。 - 授業内において思考する場面を増やす。	B	
音楽	- 楽譜に関する知識（楽典）が定着していない。 - 歌うことに苦手意識を持つ生徒への指導	- 楽典の授業のまとめとして、勉強期間を設けた上で小テストを実施し、定着を図る。 - 生徒が楽しいと思うような授業内容の充実、達成感を味わえる場面の増加を行っていく。	B	
美術	課題に対する学習意欲は高いが、深く考えて取り組むことが苦手な生徒が多い。	作品制作の手順や制作方法を確認し、各自の制作する際の課題を見つけ、個別に高い目標設定ができるように指導する。	B	
技術	- 授業内における指示を理解しきれずに作業内容を間違えて取り組む生徒がいる。 - 実技はできても知識が十分に定着していないため、定期考査の点数が低い生徒がいる。	- 作業内容を classroom で共有し、常に確認できるようにする。 - 教科の特性として、常に生活に即した内容であることを認識させ、得た知識を自身の生活に活かせるような授業を展開する。	B	
家庭	- 生活体験の違いから、ものづくりに対する既存の知識や経験とその定着の度合いが異なる。 - 実技作業に関しては個人差が見られ、理解して作業を進めることができない生徒もいる。 - 作業ができたり、授業で積極的に参加しても、理論的に理解できているかをテストで確認すると必ずしも一致しないことがある。	- 家庭生活をよりよくするための工夫を考え実践させる。 - 自らの生活に問題意識をもち、その解決や改善方法を考えることができるような授業展開をする。 - 自分の生活や社会問題に関心をもち、持続可能な社会づくりに貢献しようとする態度を育むような授業内容を工夫する。	B	
保健体育	自身の体の動きをイメージすることや考えて行動することが苦手。	- ICT を活用し、動画を見てイメージをしてから練習を行ったり、自身の動きを確認したりさせる。 - 主体的に動いていけるように、単元の導入で運動をしやすい雰囲気をつくる。	B	
外国語	- 単語のスペルが書けない。 - 場面に応じて自分や相手のことについて英語で適切に表現する力が身につけていない。 - 自ら課題を見つけ、解決するために計画的に学習に取り組む習慣が身につけていない。	- 毎時間単語テスト等の小テストを実施し、単語や語彙の基礎を身につけさせる。 - 自分のことを英語で話したり、話したことを英文で書かせることによって、考えて英語で表現する力を身につけさせる。 - 定期考査後に自らの学習を振り返り、目標を考えさせることで、生徒が自ら学ぶ力を身につけさせる。	B	

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第二中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	・漢字の書き取りが定着していない。 ・読解や書くことに対する苦手意識をもつ生徒と得意な生徒の差が大きい。	・毎時間の帯学習で漢字小テストを行い、繰り返し学習を促す。 ・ICTや思考ツールを活用し、自分の考えを整理させるとともに、互いの考えを共有し、考えを広げたり深めたりする場面を意識的に設定する。	B	
数学	・四則の計算、分数の計算、割り算計算などでつまづいている生徒がいる。 ・反復練習、家庭学習が不足している生徒がおり、学習内容の定着に時間がかかる。	・朝学習や授業内での机間指導により、基本的な計算力を身につけさせてゆく。 ・小テスト、単元終了テストをこまめにおこなうことにより基本事項の定着度合いを意識させる。	B	
理科	・事象を正確に理解することが難しい。 ・問題集の解説を注意深く、正しく読み、理解することが難しい。	・デジタル教科書等の動画を提示する。 ・問題集等の問題の解説をグループで考え、発表させる。	B	
社会	・調査や資料等から社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集、読み取り、まとめる技能の定着 ・社会に見られる課題の解決に向けて、思考・判断したことを根拠に基づいて説明する力の育成 ・よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成	・投影機やデジタル教科書を用いた視聴覚教材の提示 ・思考ツールを用いて思考・判断した事柄を整理する場面設定 ・自分たちの生活との関連付け、各単元の第1時での単元を見通した問いの設定	B	
音楽	・楽譜に関する知識（楽典）が実際の読譜に生かされていない。 ・歌うことに苦手意識を持つ生徒への指導	・楽譜中での楽典の知識の活用方法をより丁寧に教える。友達と一緒に考えるなど、協働によって課題を解決する場面を多く設定する。 ・生徒が楽しいと思うような授業内容の充実、達成感を味わえる場面の増加を行っていく。	B	
美術	・アイデアを出すことに苦労する生徒が多い。 ・制作の手順見通しを持つことが苦手。	・早い段階で取り組む課題の内容を伝え、アイデアを練っておく、時間を設けるようにしている。 ・授業内でやるべき内容ができていない生徒には、昼休みや放課後、美術室を開放し制作するチャンスを与えるようにする。	B	
技術	・作業内容を理解しないまま実技に入り、工程を間違える生徒がいる。 ・作業はできていても、なぜそうなるのかということにつなげることが苦手な生徒がいる。	・作業内容を classroom で共有し、常に確認できるようにする。 ・実技においても知識が定着するように解説を入れながら作業をしていく。	B	
家庭	・生活体験の違いから、ものづくりに対する既存の知識や経験とその定着の度合いが異なる。 ・実技作業に関しては個人差が見られ、理解して作業を進めることができにくい生徒もいる。 ・作業ができたり、授業で積極的に参加しても、理論的に理解できているかをテストで確認すると必ずしも一致しないことがある。	・家庭生活をよりよくするための工夫を考え実践させる。 ・自らの生活に問題意識をもち、その解決や改善方法を考えることができるような授業展開をする。 ・自分の生活や社会問題に関心をもち、持続可能な社会づくりに貢献しようとする態度を育むような授業内容を工夫する。	B	
保健体育	・体力の低下がみられる。 ・自身の体の動きをイメージすることや考えて行動することが苦手。	・毎授業で補強運動を入れるとともに家庭でできる運動を指導していく。 ・ICTを活用し、動画を見てイメージをしてから練習を行ったり、自身の動きを確認したりする。	B	
外国語	・writing の力が弱い（正確に書くことができない） ・個の学力差が大きい（あきらめている生徒がいる）	・書く機会、正確さを確認する場面を多く作っていく。 ・日常的にステップアップできるタスクを増やし、一人ひとりが達成感を感じるようにする。	B	

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第二中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	- 漢字の読み書きを定着する - 根拠をもち、自分の考えが伝わるように文章を工夫する力を伸ばす - お互いの考えを共有し、深め合おうとする姿勢を身に付ける	- 定期的な小テストを実施する。 - 根拠と考えの結びつきを振り返らせ、文章が簡潔で伝わりやすいか推敲する時間を設ける。お互いに共有・評価させる。 - 自分の思いや考えを書いた上で、小グループで共有する機会を増やす。	B	
数学	- 展開や因数分解などの基本的な計算問題の定着をはかる。 - 計算過程を意識させる。 - 証明の問題を通じて、論理的に考え、説明する力を育成する。	- 小テスト、習熟テストを実施し、生徒の習熟度を把握し、指導に生かす。 - 必要最低限の途中式を書かせることを徹底する。 - 証明の問題では、なぜこのような論理展開になるのかを確認しながら指導を行う。また、ペアやグループで発表する時間を設ける。	B	
理科	- 実験結果を表やグラフにまとめる経験に乏しい - 表やグラフを理解し、分析することが難しい - 考察を分かりやすく文章化できていない	- 手描きやスプレッドシートを用いたグラフ作成方法を学ばせる - 考察のテンプレートや例を示す - 他の生徒の考察を見聞させる機会をつくる	B	
社会	- 知識の定着が不十分な生徒が多く、知識や用語に関連付けて理解することに課題がある。 - 話合いや意見交換に取り組む生徒はいるが、考えたこと、話し合ったことを文章や言葉で表現する点に課題がある。	- 単元ごとに重要語句の復習を適宜行う。 - 社会的事象、出来事の相互の関連性、因果関係を丁寧に授業で取り上げ、理解を深める授業内容を増やしていく。 - 学習内容を自分で確認したり、調べたりして授業内容を自ら整理し、理解を深める課題を増やしていく。	B	
音楽	- 楽譜に関する知識（楽典）が実際の読譜に生かされていない。 - 歌うことに苦手意識を持つ生徒への指導	- 楽典の授業のまとめとして、勉強期間を設けた上で小テストを実施し、定着を図る。 - 生徒が楽しいと思うような授業内容の充実、達成感を味わえる場面の増加を行っていく。	B	
美術	- アイディアを出すことに苦労する生徒が多い。 - 制作の手順見通しを持つことが苦手。	- 早い段階で取り組む課題の内容を伝え、アイディアを練っておく時間を設けるようにしている。 - 授業内でやるべき内容ができていない生徒には、昼休みや放課後、美術室を開放し制作するチャンスを与えるようにする。	B	
技術	- 同じ課題に取り組む中で、他力本願で課題に取り組もうとする生徒がいる。 - 同じような用語の区別をつけるのが苦手な生徒がいる。	- プログラミングで使用する機器の個体差もあるので、同じ条件で授業に臨めるように準備する。 - 情報分野の用語は似たようなものが多いので、図式化などをして単語ではなく一連の流れで覚えられるような資料提示をする。	B	
家庭	- 生活体験の違いから、ものづくりに対する既存の知識や経験とその定着の度合いが異なる。 - 実技作業に関しては個人差が見られ、理解して作業を進めることができにくい生徒もいる。 - 作業ができたり、授業で積極的に参加しても、理論的に理解できているかをテストで確認すると必ずしも一致しないことがある。	- 家庭生活をよりよくするための工夫を考え実践させる。 - 自らの生活に問題意識をもち、その解決や改善方法を考えることができるような授業展開をする。 - 自分の生活や社会問題に関心をもち、持続可能な社会づくりに貢献しようとする態度を育むような授業内容を工夫する。	B	
保健体育	- 学習カードの記入が定着していない生徒がいる。 - 種目によって積極性にバラつきがある。 - 自ら考えて課題を解決しようとする生徒が少ない。	- 授業の中で学習カードを記入する時間を毎時間取れるようにする。 - ｽﾚｰｽﾃｯﾌﾟを感じれるように目標を設定させる。 - ICT などを活用し、見本の動画と自分の動画を見てイメージをつかませ意欲を高める。	B	
外国語	- 英語を話すことに慣れていないため、発言をしようとする雰囲気なかなか作れない。 - 学力の差がある。 - 友達と協働的に問題を解決する力が乏しい。	- 簡単な話題から、会話をする長さを少しずつ長くするような会話練習を行う。 - スモールステップで、基礎基本を定着させ、普通の授業内でできたことは褒め、自信を持たせる。 - 友達と協力しながら課題をクリアできることの良さを感じられるような発問や活動を意図的に取り入れる。	B	

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。